

第5章

寄宿舎の研究

1 研究の概要

(1) 研究主題

「卒業後に向けたキャリア発達を育む指導」

(2) 設定理由

第8次研究では、社会に開かれた教育課程を実現すべく、キャリア教育の視点を基礎としたカリキュラムマネジメントの実践について研究が進められる。キャリア教育は、一人一人の社会的・職業自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を通して、キャリア発達を促す教育と定義される。また、キャリア発達は、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程である。寄宿舎では、舎での生活や指導を通じ、基本的生活習慣や充実した余暇が確立されることにより、将来社会に出た際に自分らしい生き方を選択するための能力や態度を身に付けることができると考え、「卒業後に向けたキャリア発達を育む指導」を主題として設定した。

近年の寄宿舎の生徒の実態として、寄宿舎での決まりやルールを自分なりに解釈するため、決まりを守ることが難しい生徒や、気持ちの面の不安定さから落ち着いた生活を送ることが難しい生徒、余暇を含めた一日の生活を計画的に組み立てることが難しい生徒が見られる。更に卒業後、生活面で悩み（人間関係、金銭、携帯電話など）を抱え、仕事に影響を及ぼす事例が見られる。そのような実態を踏まえ、卒業後に向けての目標に対して、自己理解を深めて課題に向き合い、必要な能力が育成される指導法の検証を進めていくと共に、プロジェクト研究と連動し、新しい時代に必要な資質・能力の育成に繋がるマトリックスに沿った指導ができているか検証を行い、その内容や方法を改善・工夫していく。

(3) 研究の内容と方法

① 全体研修での共通理解

- ・学校で行われる全体研修会へ参加し、理解を深める。

② 事例研究

- ・研究主題に関わる生活習慣や余暇について課題を持つ生徒を各室担当が舎室生徒より抽出する。抽出した生徒について実態を整理し、課題を明確化する。
- ・男子棟をAグループ、女子棟をBグループとし、グループ毎に抽出された生徒について考察し、対象生徒の精選及び指導法について協議する。研究主題を踏まえた上で課題に対してどのようにアプローチしていくか、マトリックスに沿った指導ができているか考察、検証する。

(4) 推進日程

- 5月…対象生徒抽出、実態整理
- 6月…グループ協議、寄宿舎研修会議（全体発表・協議）
- 9月…グループ協議（指導経過）
- 10月…寄宿舎研修会議（中間発表・協議）
- 1月…グループ協議（結果及び考察）
- 2月…最終報告

事例報告

報告者 Aグループ（男子棟）

1 事例対象生徒

- ・学科 農業科
- ・障害名、併せ持つ障害及び疾病…自閉症スペクトラム、多動症の行動特性

2 対象生徒の実態

（1）基本的生活習慣

身辺処理についての基本的な能力は有している。しかし、衛生面や整理整頓に対しては必要性の実感が薄く、余暇や自己都合を優先して行動するため、身辺処理に関する行動について丁寧に行わないことが多く見られ、適切な日課に沿って過ごすことが習慣化されていない。

（2）社会性

決まりやルールよりも自分の価値観を優先することがあり、決まりを守らずに行動することや、掃除などの集団活動に参加せずに役割を果たさないことがある。また、やりたいことなど自分の思いを抑制することが難しく、思いが通らないと不安定になることがある。社交的で会話の能力があるが、相手の気持ちを考える事が難しく、不適切な言動や、相手を不快にさせる言動をすることがある。

3 保護者との連携(家庭での様子、保護者の意向)

保護者は、自分一人ができるようになってほしい。自立して生活できるようになってほしいとの意向をもっている。

4 課題の設定及び指導仮説

（1）課題の設定

対象生徒は、余暇を優先し、計画的に時間を過ごすことが難しく、適切に日課に沿って生活することが身についていない。また、相手の気持ちを考えることや自分の思いを抑制することが難しく、不適切な言動をすることや、集団活動での役割を果たさないことがある。時間の組み立て及び、感情のコントロールと適切な言動については、社会生活を送る上で必要な能力であり、多くの生徒が有する課題でもある。卒業後を意識させた上で、課題の解決に向けた指導を行うことにより、キャリア発達が育まれるものと考え、課題として設定した。

（2）指導仮説

日課の必要性を理解させ、生活する上で必要な時間と余暇の時間を自分で組み立てられるよう指導することで、卒業後の自分の生活スタイルを意識して生活することができると考える。また、寄宿舎での決まりを守った生活や集団活動の意義の理解を進め、自主的に取り組ませることで、集団での関わり方や自分の役割を果たすことの意義を実感し、卒業後、自分の役割や立場を理解して、社会と関わり、自己実現に向けて努力する資質が育まれると考える。

5 指導内容及び方法

- ・対象生徒の課題が見られる場面について取り上げ、行動の原因や傾向を考察したり、指導法を検証したりして、実践する。
- ・同様の課題をもつ生徒についても、指導方法について実践を行いながら、検証する。
- ・プロジェクト研究と連動して、新しい時代に必要な資質・能力の育成に繋がるマトリックスに沿った指導ができているか検証を行う。
- ・対象生徒が卒業後に一般就労し、一人暮らしをするということに結びつけて現在の自分自身の行動を

続けることが好ましいのか、好ましくないのかを視覚的に分かりやすい資料を用意し、自己理解できる場面を設定し、理解を深める。

- ・他者の気持ちを理解するために言葉掛けだけではなく、視覚的に分かるような資料を用意し、一般的な考え方について指導する。

6 指導経過

○寄宿舎の指導におけるキャリア教育について

キャリア発達にかかわる諸能力として、人間関係形成能力、情報活用能力、将来設計能力、意志決定能力の4つの領域が示されている。寄宿舎では、学年学科が入り組む多様な人間関係の中での関わり、卒業後の生活に繋がる日課に沿った生活、集団生活における決まりやマナー、当番活動や舎友会の役割・活動など、寄宿舎での日々の活動と指導を通し、各領域の能力を育まれ、社会人としての基礎的・基本的な資質・能力が身につくものと考ええる。

対象生徒は、寄宿舎で指導されていることについての意義を理解するには至っておらず、活動に取り組む意欲や態度に課題があり、自立に向けた能力が十分に身についていない。課題について意義を理解させた上での指導を進めた。

○指導の実際

〔指導前の実態〕

- (1) 就寝時刻になってから洗濯を始めるため、寝る時間が遅くなり日課に遅れる。
- (2) 余暇を優先し、掃除や配膳などの当番活動を行わない。
- (3) 先輩や職員に対して適切な言葉遣いができていない。
- (4) 一人暮らしをしたいと思っているが、その上で必要な知識やスキルが身に付いていない。しかし、本人は一人暮らしを始めればできるようになるとの考えをもっているため、知識やスキルを習得する意欲がない。

〔具体的な指導方法〕

- (1) 寝る時間が遅れることは寝不足につながり、翌日の体力や集中力の低下を引き起こすだけでなく、心身の健全な成長を妨げ、風邪や病気にかかるリスクを増やすことにつながることを口頭で説明した。また、他生徒が寝ている時間に活動することで周りの生徒に迷惑をかけることも伝えている。上記の理由を理解させた上で、下校後すぐに洗濯札を貼り、順番が来たらすぐ洗濯をするようルールを設定した。
- (2) 余暇を優先し、同室生徒と行う当番活動を怠ることは、同室生徒や職員の信頼を失うだけでなく、就職先なども含めた将来的な選択肢を狭めてしまうことを口頭で説明した。また、社会に出たときに自分の役割を担うことができないということは、職場で仕事を任せてもらえず、就労の継続にも影響を及ぼし、一人暮らしや余暇活動の充実といった自己実現も難しくなることを説明している。
- (3) なぜ、敬語を使わなければならないのか本人に考えさせた。しかし、明確な答えが得られなかったため、人間関係には立場があり、円滑なコミュニケーションを取るためには敬語が必要不可欠であることを教えている。また、社会に出てから敬語が使えないと「社内外の人と上手に付き合えなくなる」、「相手に対して失礼にあたり、自分の信用を失う」、「自分自身が恥をかくことになる」など、社会生活に支障が出ることも伝えている。
- (4) 一人暮らしをする上での身の回り整理の重要性について説明した。特に対象生徒は整理整頓に対する意識が低いため、整理整頓ができないと物の紛失が増えたり、物を探すために余暇の時間を消費したりして、紛失した物を再度購入しなければならず無駄な出費が増え、結果として時間もお金も無駄に消費するため、余暇活動の充実といった自己実現が難しくなることを説明している。

〔指導後の様子〕

- (1) 洗濯については遅れずに行うようになった。これは日々楽しみにしている食堂開放への参加条件が、「洗濯や入浴など寄宿舎のやるべきことを終わらせること」とあることも大きいと思われる。しかし、消灯時間に寝ないなど日課に沿った行動は言葉掛けがないと行わない様子もあるため、引き続き指導が必要である。

- (2) 指導直後は日課に沿った行動が見られることもあったが、時間が経つにつれて意識が薄れた。継続した指導が必要である。
- (3) 社会人として敬語を使う必要性については理解しているが、舎の生活で言葉遣いに気を付ける意識は乏しい。これは、寄宿舍での生活と社会に出てからの生活とが結びついていないため、その関連性についての意識付けを図る必要がある。
- (4) 話をしている時は興味を示す素振りも見られたが、意識の改善には至っていない。本人は異性に対して関心があるため、異性と交際する上での身辺整理の重要性なども含め、本人の意欲が湧くような指導をする必要がある。

対象生徒に卒業後の生活をイメージさせ、社会人として必要な生活習慣や技能と現在の指導を結びつけながら指導を進めたことで、寄宿舍で指導されていることの意義の理解が進んだ様子も見られ、以前に比べて適切な行動をする場面があった。しかし、言動の変化の少ない課題については、対象生徒が考える将来像の具体性や就労感が十分ではないことが考えられた。また、親しい生徒が進路変更したことに影響を受けている様子も見られる。今後、本人の具体的な将来像や就労感を持たせられるよう、自己理解を深めさせながら、継続して指導を進めていく。

7 指導結果

(1) 対象生徒指導結果

対象生徒は、親しい友人の進路変更などに影響を受け、寄宿舍および学校に対する意欲が低下している様子が見られ、登校を拒むことや日課どおり活動できないことがあり、長期休業中など帰省時における自宅の様子では、起床時間や就寝時間が安定しない規律のない生活を送っていた。対象生徒の様子の変化から、寄宿舍での対象生徒への指導は、帰舎および登校に対する目的意識の向上を図ることに重点をおくこととした。帰舎および通学に対する意思を固めるべく、学校や保護者と協力して学校や寄宿舍で生活することの意義について理解が進むよう指導しながら、帰舎や登校について促し続けた。その後、対象生徒は帰舎するも学校へ登校できないこともあったが、学舎での一貫した指導により、登校する日も見られ、継続して学校、寄宿舍への生活の意義の理解について指導を進めている。

対象生徒の課題について指導をしながら、キャリア発達が育成されるよう進めてきたが、研究当初にあげていた課題について解決には至らず、本事例からのキャリア発達を検証することは難しい。対象生徒は、自己の価値観よりも他者の意見に合わせることが多く、自分の考えによる選択をすることが難しいこと、また、本人の考えと現実の間とでギャップがあることが、指導に対する受け入れを難しくしている要因と考えられた。また、自己理解について指導を進めたが、十分な変化には至っていないことから、今後も継続して自己理解を進め、対象生徒自身の考えを確立して自分の希望する就労や生き方について選択することに結びつけていきたい。

(2) Aグループ（男子棟）におけるキャリア発達

今年度の研究の実践を踏まえ、Aグループ（寄宿舍男子棟職員）で、キャリア発達の視点から寄宿舍において卒業後の生活に必要な力が育まれている事柄について意見を出しあった。寄宿舍において集団で生活していることにより、周りの生徒と協力して活動することや、自分の役割や立場を考えた行動、他生徒との関わりによる余暇活動の深まりなどについて成長がみられるとの意見が出された。集団生活という環境により、他生徒との関わりの経験を積み重ねることができ、関わりの広がりや深まりが見られ、更に関わりの場면을捉えて適切な言動について指導を行っていることにより、必要なスキルについて身につけているものと考えられる。

(3) 考察

キャリア発達とは、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程と定義される。多くの生徒がそれまで家庭が中心となっていた生活から、寄宿舍で集団生活することによって、相手や自分の立場を理解することや役割を担うことを日常生活の様々な場面で経験し、指導を受けることで、協調性や責任感が養われていることが、今回の研究で改めて感じられるところであった。また、本校のキャリアプランニングマトリックスと照らし合わせると、指導観点の「知識・技能」「コミュニケーション」「応用力」の項目に関して深く関わる場所である。協調性や責任感は、社会に出たときに重要な資質である。生徒がそれらの重要性、必要性についての認

知を深め、さらに集団生活の中での様々な場面で他生徒と適切に関わり、卒業後の生活に必要な能力の育成に結びつけることが、次年度以降もキャリア発達について研究を進める上で必要となっていくと考える。

そして、今年度の事例の中で適切に自己理解をすすめていくことが課題解決に結びつくと考えられた。キャリア発達の「自分らしい生き方」を育成する点からも、社会の中で自己実現や自己を確立して、それぞれの生徒にふさわしいキャリアを形成してくため自己理解の育成が必要と考えられる。あわせて次年度以降の研究につなげたい。

事例報告

報告者 Bグループ(女子棟)

1 事例対象生徒

- ・学科 生活家庭科 Aさん、家庭総合科 Bさん
- ・障害名、併せもつ障害及び疾病…Aさん自閉症、知的発達遅延
Bさん自閉症スペクトラム、てんかん

2 対象生徒の実態

(1) 基本的生活習慣

Aさん

身辺自立において、洗髪を丁寧に行うことが難しく、職員が仕上げや確認を行っている。また、生理のときには適切な処理を難しいことがある。整理整頓も衣類の畳み方や収納について課題があり、定期的に職員の確認が必要である。

Bさん

基本的生活習慣が確立しておらず、すべての日課において職員の言葉掛けや支援が必要である。理解能力は高いが障害特性でこだわりが強く、注意散漫でもあるため、やるべきことを終えるまでに時間がかかる。

(2) 社会性

Aさん

基本的に明るく温厚で人との関わりを好む。不測の事態や、自分の考えと異なることが起きたときに涙を流すことや、落ち着かなくなることがあり、適切な対応をすることが難しいことがある。また、自分の話をしたいという気持ちが強く、相手が話をしているときに割って話をするすることがあり、対人面においても職員の介入が必要なことがある。

Bさん

周囲のペースに合わせた行動ができず、集団生活になじめないことがある。自分のやりたいことに対してこだわり、制止されると暴言を吐くことや生活すべての場面对して言い訳や自分なりの理由を言って自分のやり方を通そうとすることがある。自分の不適切なやり方が身についてしまい、行動を変えることができない。また、自分のやりたいことを優先してしまい、できないことで落ち着かなくなりやるべきことを指示されても受け入れることが難しい。

3 保護者との連携(家庭での様子、保護者の意向)

Aさん

家庭ではゲームをしたり、テレビを見たりして過ごすことが多い。また、定期的に児童デイサービスを利用している。保護者の願いは自立した生活を送ってほしいことと、円滑なコミュニケーションを身に付けてほしいと願っている。

Bさん

家庭ではゲームをして過ごすことが多い。毎週土曜日に児童デイサービスを利用している。自分の欲求を通すために父の現金の要求や、祖母に攻撃的になったりすることがある。保護者の願いは、最低でも金銭管理ができるようになってほしいことと、精神的に強くなってほしいことである。

4 課題の設定及び指導仮説

(1) 課題の設定

Aさんは不測の事態のときに適切な対応を取ることが難しいことがある。Bさんは日課を理解しているが、一つ一つの行動に時間がかかってしまい、自分の好きなことをする時間が短くなっているのが現状である。Aさん、Bさんの共通の課題として基本的生活習慣の確立や、人との関わりなどが挙げられ

る。卒業後を見通し、上記の課題を少しでも解決させることにより、キャリア発達が育まれるのではないかと考え、課題を設定した。

(2) 指導仮説

基本的な生活習慣を確立させることにより、生活の質が向上し健康な生活を送ることができ、適切な人との関わり方を身につけることで社会性が身に付けられ、より良い人間関係を構築できると考える。また、起床から就寝までの1日の日課の流れを理解し、効率良く行うことで、自分の好きなことをする時間も増え、気持ちの安定を図ることができる。これらのことは、卒業後を見通したときに、自分らしく生きていくための手助けになるのではないかと考えた。

5 指導内容及び方法

- (1) それぞれの個別の支援計画の指導内容を元に日々の支援、指導を行う。
- (2) 学ぶ機会を設定し、身だしなみや、人との関わり方について職員と一緒に学んでいく。
- (3) プロジェクト研究と連動し、新しい時代に必要な資質・能力の育成に繋がるマトリックスに沿った指導ができているか検証を行う。

6 指導経過

Aさん

入院生活や実習により短い期間ではあったが、寄宿舎で生活を送っているときには、室担が中心となり不測の事態の際は都度説明して、落ち着くことができた。対人面では、最高学年になったことからより先輩としての自覚が芽生え、下級生に寄宿舎の日課を教えたり、仲良く余暇を過ごすことができた。現在は入浴の支援や人との関わりについて指導を行っている。後期は卒業後も継続して自分でできる範囲の基本的な生活習慣の確立を目指した指導、支援を行っていく。

Bさん

- ① 日課を明確化し、チェック表を活用することで、終了時間をデータ化する。

Bさんは障害の特性から自分のやり方にこだわりをもち、時間を費やしてしまうことがある。結果、周りのペースに合わせることに難しい場面が見られる。Bさんは視覚から得る情報が優位なため、見てわかりやすい、正規の日課表よりも5～10分程度早めの日課表を本人に提示した。(資料①) また、終わったことが見て分かるようにチェック表(資料②)も用いた。Bさんは日課表に沿いながら日課をこなし、毎日少しずつ余暇の時間を増やしていくことができた。

- ② タイマーを活用して時間内に終わらせる。

Bさんの障害の特性として「あとちょっと」「もう少し」などの抽象的な言葉を理解することが難しい。そこで、タイマーを利用し具体的に、この行動は3分以内に終わらせるなど目標を設定し、洗濯や掃除、入浴の場面で活用してきた。入学当初1時間かかっていた舎室掃除も45分、15分と時間が短くなってきている。Bさんも目標を達成することによって、周りの人から褒められ、自信をつけることができた。

上記の①、②の実践を通して、Bさんの変化は、入学当初のこだわりにより時間がかかることよりも、素早く済まして自分の余暇時間が増えることや、周りの人に褒められ、認められる方が良くと考えが変わり、Bさんの中の許容範囲が広がった。Bさんは身だしなみや、周りの人に合わせることに難しいことから、注意や指摘を受けることが多かったが、できることが増え、ほめられ、認められ、やりがいや達成感を感じるにより自己有用感が増したように感じられる。一日の流れも上記の取り組みにより、体でリズムを掴み、少しずつ定着してきている。後期も継続して指導を行っていく。

7 結果及び考察

① 結果

Aさんは障害の特性から、不測の事態が起きたときに対応することが難しいことや、経験したことがないことが不安で自信がないことがあった。また、洗髪は必ず職員が仕上げを行うことや、長期休業後には寄宿舎での生活のリズムが掴めず、職員の言葉掛けを必要とする場面が見られた。A

さんは日常生活で周りの人に支援を受けることが多かったが、職員や周りの人の言葉掛けや支援を受けることにより、日常生活を送ることができていた。また、今後の生活に必要であると考えられる、自ら助けを求めることもできるようになった。

Bさんは寄宿舎でも取り組んでいるチェック表を元に、家でのお約束チェック表を用いて家庭での過ごし方を家族と約束することまで発展することができた。(資料③) チェック表より、中でも音を出さないという約束はイヤフォンを使うのが苦手とのことで、音をとても小さくすることが身につく、家族の負担も軽減された。その他の項目についても、入学前は全く自分で行っていなかったことも、少しずつ自発的に行うことができるようになってきている。この取り組みによりBさんへ対する家族の気持ちにも変化が見られ、家族関係も良い方向に向かっている。

② 考察

今回Bグループでは基本的生活習慣の確立を目指した指導を行ってきた。Aさんは周りの人から支援や指導を受けることが多いが、明朗活発な性格で、職員や他生徒との交流を好むことや、行事の際には人前で歌を披露することもあった。卒業後の生活も持ち前の明るさや人となりで生活を送っていくことが予想される。Bさんは障害の特性に合わせて本人の分かりやすいように具体的に、チェック表やタイマーなどを用いて指導を行ってきた。この取り組みはBさんにとても有効的であった。Bさんも寄宿舎で基本的生活習慣が身に付き、家庭での生活に還元することができた。そして、Bさんは今まで、指摘や注意を受けることが多かったが、できることが増えたことにより、ほめられることが増えて自己有用感が向上した。また、Bさんのできることが増えることによって、周りの生徒もBさんへ対する気持ちも変わり、人間関係も良好になった。

上記のことからこの研究は今養版キャリアプランニングマトリックスの観点より、「心と体」に重点を置いて最初は始めたが結果的に周りの人との関わりも良くなったことから、「コミュニケーション」「応用力」にも繋がった。今回は基本的生活習慣の確立に特化した研究テーマで行ってきたが、次年度以降も生徒の実態に応じて卒業後を見通して自分らしい生き方ができる手助けとなるように研究を進めていく。生き方ができる手助けとなるように研究を進めていく。

さん 毎日のやることリスト

★ とうこうまえ 登校前にやること

	き 決まった時間にやること	あ 空いている時間にやること
6時45分	布団畳み 着替え 洗面	せんたくもの たた 洗濯物を畳む
7時30分	朝 食の配膳 (当 番の時)	
7時40分	朝 食	
8時10分	着替え	
8時15分	食 堂掃除 (当 番の時)	

★ げこうご 下校後からやること

	き 決まった時間にやること	あ 空いている時間にやること ※20時30分までに終わらせる
下校後すぐ	着替え (16時50分までに終わらないときは 掃除の後)	シャワー浴 (入 浴) 洗濯 洗濯物を干す 布団を敷く (舎室掃除の後) 翌日の着替えの準備 翌日の入 浴の準備 がつこう しゅくだい 学校の宿 題 (20時55分から21時25分によっても良い)
16時50分	掃除	
17時35分	夕 食の配膳 (当 番の時)	
17時45分	夕 食	
18時20分	食 堂掃除 (当 番の時)	
20時00分	脱衣所または浴室掃除 (当 番の時)	

『決まった時間にやること』は他のことよりも優先して行います。

時間を守って行いましょう！

□さん やることチェック!

6月3日(日)

★下校後から

※終わった項目に丸を付けましょう

やること	楓チェック	先生チェック
舎室の掃除	☒	☒
当番の掃除	☒	☒
シャワー浴(入浴)	☒	☒
洗濯	☒	☒
洗濯物を干す	☒	☒
布団を敷く	☒	☒
翌日の着替えの準備	☒	☒
翌日の入浴の準備	☒	☒
学校の宿題	☒	☒

下校した時間
時 分

全部終わった時間
9時24分

□さん やることチェック!

6月7日(木)

★下校後から

※終わった項目に丸を付けましょう

やること	楓チェック	先生チェック
舎室の掃除	☒	☒
当番の掃除	☒	☒
シャワー浴(入浴)	☒	☒
洗濯	☒	☒
洗濯物を干す	☒	☒
布団を敷く	☒	☒
翌日の着替えの準備	☒	☒
翌日の入浴の準備	☒	☒
学校の宿題	☒	☒

下校した時間
3時35分

全部終わった時間
7時14分

かんはっす。

□さん 家でのお約束チェック表

11月 3 日(土)

★家での約束

※守れた項目にチェックを付けましょう

やること	楓チェック	パパ&おばあちゃん チェック
食器をさげる (流しで水につける)	✓	✓ 食器をさげる 下げた? (11時に寝ました)
デイサービスで使った お弁当箱を出す		
お風呂に入る (夜9時までに入り始める)	お風呂に入った時間 10時50分	11/4 髪の手入れ したみたい。
夜9時になったら 音を出さない (イヤホンを使う)	✓	✓

↑空いている欄は家でお手伝いしたことを自分で記入しましょう!

□さん 家でのお約束チェック表

12月 22日(土)

★家での約束

※守れた項目にチェックを付けましょう

やること	楓チェック	パパ&おばあちゃん チェック
食器をさげる (流しで水につける)	✓	✓ 
デイサービスで使った お弁当箱を出す		7時くらいに のぞいた。
お風呂に入る (夜9時までに入り始める)	お風呂に入った時間 10時45分	
夜9時になったら 音を出さない (イヤホンを使う)	✓	✓ 

↑空いている欄は家でお手伝いしたことを自分で記入しましょう!

事例報告

報告者 Cグループ(女子棟)

1 事例対象生徒

- ・学科 農業科 Cさん、家庭総合科 Dさん
- ・障害名、併せもつ障害及び疾病…Cさん知的障害
Dさん自閉症スペクトラム(アスペルガー症候群)

2 対象生徒の実態

(1) 基本的生活習慣

Cさん

身辺処理において、概ね自立している。必要な物と不必要な物を分けることが難しく、物が多くなってしまうことがある。また、おしゃれに興味・関心があるが、経験不足や知識が少なく、時と場面に応じた格好をすることが難しい。

Dさん

身辺処理において、身だしなみや清潔を意識して、適切な対応をとることが難しいことがある。整理整頓では衣類の整理において課題がある。また、持病があるため、体調面に気を付けることや自制することが難しい。

(2) 社会性

Cさん

社会性において自分の気持ちを相手に伝えることが難しいことや、周りの状況を考えた言動をとることが難しいことがある。また、日課は理解しているが、効率の良い時間の組み立てをすることが難しく、いつも忙しく行動している。何事にも不安を抱えていることが多い。

Dさん

障害の特性から、相手の気持ちになって考えることや、その場の状況に応じて行動することが難しいことがある。また、自分は何でもできるという気持ちが強く、自己理解をすることが難しい。

3 保護者との連携(家庭での様子、保護者の意向)

Cさん

家庭では簡単な調理など、手伝いを進んでやっている。保護者は最終的には教員と本人が話し合っ

Dさん

祖母と生活しているため、甘えてしまう部分も多い。保護者は自立して仕事ができるようになってほしいと思っている。

4 課題の設定及び指導仮説

(1) 課題の設定

Cさんは物が多すぎることから、自分の持ち物の管理が難しいことがある。また、経験や知識の乏しさから、場面に応じた服装をすることが難しいことや、効率良く時間を組み立てて1日の時間配分を考えることが難しいため、忙しく過ごしている状況である。Dさんは細かな部分での身辺処理において課題がある。また、自分は何でもできるという気持ちが強く、自己理解をすることが難しい。Cさん、Dさん共に卒業後を見通して、自分の課題に向き合い、向上したいという気持ちが強く、お

互いに学んでいけるのではないかと考えた。

(2) 指導仮説

Cさん、Dさんともに自分自身の得手、不得手など自己理解を進めていく。その上で決められたルールやマナーに沿って集団生活を送る中で時間を有効に使うことや、自分の立場や役割を理解し活動に参加することで、将来自分に必要になるスキルを身に付けていけるのではないかと考えた。上記のことを踏まえ、キャリア発達の視点から、将来社会に出た際に自分らしい生き方を選択するための能力や態度を身に付けることを目指し、指導を行う。

5 指導内容及び方法

- ・時間を設けて本人の将来の理想像や不安に思っていること、卒業後を見通して身につけたいスキルなどの確認をし、職員と一緒に学ぶ機会を設けていく。
- ・対象生徒の他にも課題を抱えている生徒がいた場合には、学ぶ機会と一緒に参加し、考察を行う。
- ・プロジェクト研究と連動し、新しい時代に必要な資質・能力の育成に繋がるマトリックスに沿った指導ができているか検証を行う。

6 指導経過

(1) 機会を設けて学習する。

以下のテーマを元に学習会を行った。

テーマ	資料番号
「自分の得手、不得手を知り、目指せ女性力をアップ」	資料②
「ストレスとの付き合い方」	資料③
「自己理解を深める」	資料④
「卒業後の悩みの相談、対処の仕方、余暇の過ごし方、将来の理想像」	資料⑤⑥
「スマートフォンの使い方について」(実践)	なし

(2) 女子棟行事計画運営

例年女子棟行事は職員が主体となり、生徒に提供してきたが、今年度は生徒が主体となり楽しめるように実行委員を募り、企画運営を行った。

行事名	内容
1 学期お疲れ様会	今金町の東部ふれあいホールにてカラオケをする。事前に実行委員を募り、招待状の作成、その他事前準備、当日の司会進行。(資料①、写真①)
ハロウィンパーティー	実行委員による当日の内容決め。(当日はスライム遊び、仮装、写真撮影、おやつパーティーに決定。)招待状をパソコンで作成した。当日は準備、司会進行、後片付けを行った。(写真②③)
2 学期慰労会	実行委員として募らなかったが、当日有志で、会場設営、後片付けを。(写真④)

7 成果と課題及び考察

(1) 成果

ア 学習会の成果

CさんDさんともに、学習会を通して学ぶことも多く、今後の生活に活かしていきたいと前向きな発言が見られた。また、学習会に関心を持つ他の生徒も多々おり、今後も生徒の余暇や教養を広げる場として提供できるものになるのではないかと考える。

イ 女子棟行事企画運営の成果

初めての試みであったが、生徒が主体となり、行事を盛り上げ、楽しむことができた。また、自分に与えられた役割は何か、臨機応変に動くスキルを身に付けることができた。日々の当番活動なども自ら仕事を探して行動する生徒が多くなった。

(2) 課題

ア 研究対象生徒、及び指導者の課題

学習会ではCさん、Dさん共に「ためになった」「今後の生活に活かす」などの前向きな発言が見

られたものの、日々の生活に還元することが難しかった。Cさんは学習会を行うことにより、職員との関わる時間が多くなり、話を聞いてもらえることが嬉しく、職員と一対一で話す場面を設定してほしいと依頼があったり、周りの生徒にも自分本位な話をしたりして注目をしてもらう行動に表れてしまった。Dさんも将来を見通してやっている内容であるが、現状に満足してしまうことや、長期休暇中に寄宿舎で培った生活リズムが崩れ、帰舎が難しいことがあった。Cさん、Dさんに特化し研究を行ってきたが、対象生徒を抽出する時点で、生徒の性格や実態などを考慮する必要があった。今後改善していく必要がある。

イ 女子棟行事運営計画の課題

今年度から初めての試みで、探りながらの指導であったため、前準備が万全ではなかった。女子棟全体で楽しめるように企画運営を進めてきたが、障害の特性や性格から、楽しむことができない生徒もいた。

(3) 考察

今年度の寄宿舎研究のテーマが「卒業後に向けたキャリア発達を育む指導」であった。Cグループは学習会や行事での活動を通して、生徒が卒業後自分らしい生き方をするために少しでも力になればと考え、研究を行ってきた。今回、成果はあるものの、課題が多く残ってしまったのが、結果である。しかし、マイナスなことばかりではなく、学習会に関心を示す生徒が多くいたこと、今までの行事の在り方を見つめ直し、生徒主体の行事の企画運営を通して、自分の役割や相手の気持ちを考える社会性が芽生えたことも成果として残った。今養版キャリアプランニング・マトリックスの観点からはコミュニケーション、応用力が向上したと考えられる。

今年度は事例研究という形で研究を行ってきたが、次年度に向け、今回の研究の反省点を踏まえて、研究の方法も改めて見直しを行う。生徒一人一人が、日々の生活の中で将来を見据えて自分らしく生きていくための指導に活かせるよう今後も女子棟全体で考え、実践していく。

女子棟のみなさんへ

女子棟お疲れさま会を7月12日(木)に行います。

その時にみんなで食べるおかしは1人200円以内で

持て来て下さい。ジュースも1人1本で500ml~600mlぐらい

のものを持て来て下さい。

よろしくお願いします。

女子棟お疲れさま会実行委員



ズバリ今の自分の自己採点は・・・

8 / 15

今後こんなことに頑張ればもっと女子力アップできるかな？

くちんのケア(リッパ持参)

（ずむ時はずむ

さくれをいいてしまう

休日でもたれずに起きる

何でもオープンにしない

芸能人の差はげいから誰にでも同じく接する

ものよりたれ...

これだけは自信を持って言える！！私の力を入れているポイント♪

どんな時でもポジティブシンキングニ笑顔

つめがカタカタならばお直しをかけている

感想・ご意見などなど

女子力はやっぱりおわりにくい。

ロッカーは基本

資料③

・あなたは何個当てはまる？ストレスをためやすい人チェック！！

真面目で責任感が強い人／頑張りすぎてしまう人／完璧主義者／自己評価が高く、競争心が強い人

優秀な人／我慢強い人／細かいことにこだわってしまう人／気を遣いすぎる人

常に相手のことばかり考えてしまう人／自己主張ができない人／自己評価が低く、自分に自信がない人

自分のことが好きになれない人／すぐに将来に不安を感じてしまう人／短気な人

予定外のことがあると不安になりやすい人／好き嫌いや感情で他人を判断しやすい人

相手に過度に期待する人／ささいなことを気に病んでしまう人／過度な運動不足の人

9 / 19

・現在どんなことでストレスがたまっている？今後どんなことでストレスがたまりそう？

普段の生活(時間のなさ) 仕事(仕事内容の覚え方...etc.)

・今後ストレスが溜まったときにどのような対処をすることができそう？

音楽鑑(はう、イラスト描く、文章書く
(アソビ)とか
歌い方...etc.)

・参考になったこと、ご意見ご感想などなど

に聞いた私	に聞いた私
私は、何に向いている？ 小まかい作業、細かい者、細かい仕事 (介護士以外)	私は、何に向いている？ 手先をつかう仕事、ただひたすら同じ お伊勢をする(流れ作業)
私の、良いところは？ ①に考えない 周りを明るくする	私の、良いところは？ 言任にでも優しい!! さぼらないでちゃんとやることをやる!
私の、直した方がいいところは？ おこらなすぎる先輩として、ダメな事してたら 後輩とおこらなすぎると思われていた) 周りの空気をよんだ方がいい	私の、直した方がいいところは？ 自分の好きな言任になるとやめられず! 相手が興味なくても言任しつづける... 自分をイライラさせる(手の甲がリガリリ) 思ったことを考えずにすぐに言任ちゃう。

周りから見た自分で知っていた(分かっていた)こと

・人に優しくすぎる 素直

・積極性

周りから見た自分で知らなかった(今回初めて知った)こと

・人柄がいい 責任感が強い

・誰にでも優しい

自分から見た自分と周りから見た自分を合わせて私ってどんな人？

・他人に優しくして怒りなれど強さあり

・おぼろぐせも出さない

卒業までに身につけておいた方がいいことは何だろう？

・言い訳をしないこと

・目的に言任すること

・悩みのある方と相談すること

卒業後・・・

こんなとき誰に相談すればいいかな？考えてみましょう♪

生活を送る上で、たくさんの悩みや困りごとがあると思います。
まず、どんな人だったら相談できるか考えてみましょう！！

優しい人、友達、姉・家族、信じてくれる人

逆に、こんな人には相談したくないな...と思う人はどんな人？

バカさん、笑いのネタにする人、自分でイタとかいながら、ずいぶん言いたい調子でいる人等

ここからは問題です。自分だったらどうするか考えてみましょう♪

Q1、あなたは社会人です。今日は仕事がある月曜日です。朝から体調が悪くて熱があります。どのように対応しますか？

親に相談。会社の人に相談。休みを取る。という。
(上司)

Q2、就職して2年目の秋です。職場の人とあまり関係がうまくいっていません。仕事もちょっと辞めたくなってきました。誰に相談しようかな？

職場のえらい人に相談。家族。

Q3、仲の良い友達に3000円を貸してと言われました。あなたなら貸す？貸さない？
貸す(貸さない) どちらか〇を付けて理由も書いてね♪

金が返ってこないから、のちのち、ボリスXのお世話になる。

Q4、あなたに恋人がいます。最近うまくいっていません。別れたい気持ちもあります。そんなとき誰に相談する？

友達 30.40才の人にも相談。
(ビニール袋の人)(職場の人)

Q5、理由は詳しく分らないけど、ものすごくイライラしています。誰に相談する？また、どのようにストレスを発散する？

好きなゲームのじょうけんを見る。

音楽を聞く。(V系)

シガレット(おかし)を食べる。

卒業後・・・

どんな大人になりたい？考えて見よう！！

Q6、あなたは社会人で、今日は休日です。どんなことをして過ごしたい？

デート買い物、TVを見る。犬と散歩する。
色んなジャンルのドラマを見る。ネイルピアスつける。

Q7、卒業して1年後(19歳)あなたはどうなっているかな？

働いている。

Q8、卒業して5年後(23歳)のあなたの理想像は？

めんきょを取る。働いている。(パン屋)
カレシを見つける。

Q8、今後の人生でやってみたいこと、叶えたいこと、行きたいこと、なんでも！！

カレシがほしい。コミケ行きたい。
ディズニーシー行きたい。ヤンキーの集団に入りたい。
パンクファッションがしたい。

Q9、上記のことを叶えるためにはどんなことをしていく必要があるかな？

お金をためる。(ムダ使いをしない)
ナチュラルメイクを覚える。早起き。
メンタルを強くする。

感想

これからカッコイイ人を目指して、元氣張ります。

写真①



写真②



写真③



写真④



4 成果と課題

全体研修会には、勤務の関係上、全職員が参加することは難しかったが、研修会の資料や記録を参照し、共通認識と理解のもと研究を進めることができた。

事例研究では、研究主題の「卒業後に向けたキャリア発達を育む指導」について、寄宿舍での生活や指導で育成されるキャリア発達について考察しながら研究を進めた。寄宿舍での生活や指導で、基本的な生活習慣が身につく、自分の役割や相手のことを考えた行動ができるようになっており、「社会の中で自分の役割を果たす」というキャリア発達の定義に直結していることが改めて確認できた。しかし、キャリア発達の定義である「自分らしい生き方を実現していく過程」という点について、将来への見通しを持つことや、自己実現をするために取り組むことについて指導すすめたが、対象生徒が必要を感じていないことや、社会人になったらできるという考えが見られ、自己理解の必要性と理解を進めるための指導が課題となった。

個々の障害特性に応じた卒業後の生活における課題について、生徒一人一人が理解し、解決できる力を身に付けられるよう指導方法を検討していく必要がある。

次年度の研究に向け、卒業後を見通して必要となる資質・能力の確認を職員全体で行い、共通認識のもと、生徒に還元できるように取り組んでいく。